



青峰学園進路だより 第3号

令和 6年 12月 25日
東京都立青峰学園
校 長 吉池 久
進路指導部 對馬 健太

保護者の皆様には、いつも児童・生徒の進路指導への御協力いただきありがとうございます。今号では11・12月の進路行事についてお伝えします。

11・12月の進路行事報告 ～卒業後の進路と生活に向けて～



第2回 進路学習会の報告

11月7日(木)に第2回進路学習会を開催しました。これまで、講演会を行うことの多かった進路学習会ですが、今回は医療現場の各種



検査を請け負うH.U.キャスト株式会社あきる野事業所の見学会という形で実施しました。

当日は、事業所の業務リーダーや近隣の特別支援学校の卒業生の社員の方々から「会社全体としての事業内容」「特別支援学校卒業生の業務内容」「社内での1日のスケジュール」などお話しいただきました。それぞれの従業員が自身の目標を定めて業務にあたり、どの程度達成できたかを担当者とともに考え改善していく流れについて、従業員の方々からお聞きして、その中には本校の卒業生もおりましたので、青峰学園で学んできたことや体験してきたことのつながりを含めてお話を聞くことができました。

企業の見学は在学時に取り組む活動の一つ一つについて改めて考えることができる良い機会となりました。保護者の皆様にとっても、就労の在り方や就労定着について考える一助となれば幸いです。お忙しい中、御参加いただきありがとうございました。

第3回の進路学習会の様子については、次回の進路だよりにて御報告します。よろしくお願いたします。

就労支援機関連絡会の報告

12月4日(水)、11日(水)、18日(水)に就労支援機関連絡会を行いました。就業技術科の2、3年生を対象に、卒業後の就労支援及び生活支援につなげていくために、2年生は就労支援機関との顔合わせ、3年生は進路先の見通しや支援の依頼についての話し合いを就労支援センター等の職員と行いました。

卒業後の働き方や生活面で不安が出てきた際に、本人や勤務する企業は就業・生活支援センターや就労支援センターへ相談することができます。しかし、企業も本人もその利用方法に慣れていなかったり、一人一人に必要な配慮も違ってくることから、対応が変わってくる場合があります。今回の連絡会での顔合わせや話し合いを通じて、卒業後困ったときに、上司や同僚、家族をはじめ、必要に応じて就業・生活支援センターや就労支援センターなどの支援機関に相談しながら、自身に合った働き方や生活の仕方について考え、安定した生活を送っていけるようになってほしいです。



肢体不自由教育部門の進路学習

肢体不自由教育部門では、高等部1年でインターンシップ、高等部2、3年で現場実習、また大学進学希望者向けに大学調べなどの進路学習を行っています。12月から2月までの間は特に実習が多く、それぞれの生徒と家庭の進路希望に応じて、就労移行支援、就労継続支援B型、生活介護など様々な施設での体験を実施しています。卒業後の進路も考慮し、本人の特性、御家庭、事業所の受け入れ体制などを含め念入りなすり合わせが必要になってきます。在学中にできることを増やしていくことで進路先の候補が増え、進路選択の幅も広がります。毎日の生活の中で少しでも多くのことにチャレンジして自身の可能性を広げていきましょう。



現場実習でのカバンについて

本校のインターンシップ及び現場実習では、「働く意欲、ルール、マナー、態度」を身に付けるために、実際の通勤を意識した服装や気持で実習先へ向かうこととしております。また、インターンシップや就職活動のカバンについては、一般的にシンプルで派手過ぎない色やデザインの物が良いと言われています。ビジネスバッグの購入や通学用カバンの買い替えを御検討の際には、

- ・黒や紺など単色の物
- ・A4サイズの資料が入る大きさ
- ・落ち着いたデザイン

などを意識し、働くことについて考える機会としていただければと思います。

